

曾於文藝

俳句

末吉千草俳句会

湧水の岸辺たどれば 草の花
甘柿と誰も気付かぬ 公園に
湧水の流れに沿ひし 秋の蝶

中留 とき女
児玉 タエ子
福嶋 武子

大隅俳句会

幾度も明るき月に起き出でし
豊年を伝へて里の風渉る

野上田 憲緒
中島 玉水
河南 ミホ

短歌

末吉短歌会

黒岳の山頂に佇ち深呼吸ああ二
ンゲンの言葉は要らぬ
うつし世の送り火照らす涅槃へ
のはるけき道を母もどりゆく

長倉 佳津子
泊 康

大隅短歌会

はじめの節句むかえしひい孫
のアツパーカツトは小さなこぶ
うな井を食べに行きたる店内を
低く流るる「海征かば」のうた

本田 澄江
竹内 蛙子
伊勢 タミ子

「題字」
末吉文化協会会員
瀬戸口 淳 氏

財部短歌会

口蹄疫豪雨災害罰当たる素直な
生きざま捨て去りしか
天国に妻は召されて旅立ちぬ傘
寿の足跡大きく残して

祝迫 道雄
橋口 貞男

山あひの青田消しゆく泥の海農
夫等無言で立ち居り雨の中
麗しく藍色極めし紫陽花も味は
ひ残しひそか褪せゆく

児玉 次雄
富山 治雄

黒い雲重なり流れ雷鳴は大きな
音たて転がるやうに

川俣 若

空つぼの牛舎に佇む飼ひ主は額
に深き苦渋覗かす

杉村 リカ

翠玉の輝きにも似し小さき実を
南瓜の黄の花抱きて咲ける

瀬戸口 芳子

真夜中の耳を引き裂く雷鳴に機
銃掃射の怖さ重なる

井上 澄子

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

エコじやつち 買物袋も 銭
になつ

桐野 奈世

米袋に お布施を添えつ
先祖供養

森山 厚香

みばあ良が 中身が知れん
福袋

浜田 一好

大隅薩摩狂句会

月の晩 デイトも嬉し恋人同士
農繁期 月が追掛くい畑帰

津留 群志

風情じやち月の明かいで焼酎を
飲つ

西山 美代子



9月24日大隅支所に舞込んだふくろう